

園長あいさつ

「変えてゆくもの、 変えてはならぬもの」

園長 小松 守

開園50周年を終え、51年目を迎えた昨シーズン、次世代を担う若いスタッフが未来に向けて掲げたテーマは「楽しく学べる体験型動物園」でした。これまでのパフォーマンスに磨きをかけ、より楽しく、よりたくさんの気づきを得て、学べる新たな動物園づくりへのチャレンジです。シーズン後半には園内遊園地アニパとの共同企画「謎解きクエスト」も加わり、多くの来園者に楽しんで

いただきました。動物園を変えていこうとするこうした動きは大森山動物園をさらに特徴付けるものになるはずです。

今、秋田の動物園を取り巻く経営環境は少子高齢化、人口減少など厳しいものがありますが、動物が環境変化に適応進化し生き抜いてきたように、動物園も時代の変化に合わせ変わってゆく必要があります。

一方、いのちを預かる動物園、変えてはならぬ大事な本体があります。それは動物のいのちを守りつなぎ続けること、来園者に動物との出会いを提供し、動物と心を通わすことのできる環境づくりで「いのちのドラマ」を伝え続けることです。これらは動物園であり続けるための大事な要件とも言えましょう。動物園生活50年で到達した心境です。

今シーズンも大森山動物園をどうぞよろしくお願いいたします。



楽しく学べる「モルモットのロングカクカク橋渡り」

こんにちは！あかちゃん

インドクジャク 4羽

8月9日に4羽が自然ふ化しました。ふ化したばかりのヒナはあまりに小さく、金網の隙間から展示場の外に出てしまうおそれがあったため、お母さんと一緒にお客さまにもご覧いただける小屋に移動しました。



8月17日撮影



2024年8月以降に大森山動物園で 生まれた赤ちゃんをご紹介します。☆☆

アカカンガルー ヒラメとデコポン

11月27日にカスベとみかんの袋からそれぞれ顔を出しました。年末に、カスベの袋にいるはずのヒラメの姿が確認できなくなりました。部屋中をくまなく探したところ、なんと、みかんの袋の中に2頭の子どもが入っていることがわかりました。2頭とも元気に育つように人工哺育も準備中です。



ヒラメ(カスベの仔)



12月1日撮影 デコポン(みかんの仔) 12月撮影

飼育動物数(12月末時点)

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	無脊椎動物	合計
45種 323点	23種 118点	12種 26点	3種 10点	3種 29点	1種 23点	87種 529点

仲間入りした動物たち よろしくね！

ホンドリス 4頭

12月19日に盛岡市動物公園からオス2頭、メス2頭のホンドリスが来園しました。大森山動物園のリスの数が減っているので、繁殖に期待がかかります。

このほか、コモンマーモセットのメス2頭が上野動物園から来園しています。



大森山を後にした動物たち 元気でね！

ユキヒョウ ヒカリ♀

2022年に大森山動物園で誕生したユキヒョウのヒカリが10月22日に札幌市円山動物園へお嫁入りしました。引っ越しにはいろいろと苦労がありました。

詳しくは8ページの飼育レポートをご覧ください。



ヒカリ/メス

訃報 忘れないよ…

エリマキキツネザル カイン♂

カインは1997年に上野動物園から来園し、ジェシカとの間に多くの子どもを残しました。晩年は体力も衰え、定期的な治療が必要だったことから、ケージで個別に飼育し、2024年10月23日に29歳で亡くなりました。大往生でした。



ニホンアナグマ いけだ♂

11月27日に亡くなりました。いけだは2009年に高知県のわんぱくこうちアニマルランドから来園しました。愛称はわんぱくこうちの担当者にちなんだものです。いけだは、1頭だけでゆっくり食べられる環境だったのですが、エサをとられないよう急いで食べていたのが印象的でした。



シュバシコウ♂（ヨーロッパコウノトリ）

12月14日に26歳で亡くなりました。1999年に大阪の天王寺動物園から来園し、フライングケージや遊園地近くの展示場で過ごし、繁殖にも成功しました。赤ちゃんを運んでくるのはニホンコウノトリではなくシュバシコウと言われており、子宝祈願していくお客さまもいたそうです。



ミニチュアホース エルフィー♀

エルフィーは2007年に大森山動物園で生まれました。3頭いる中で一番小さな馬でしたが、自己主張が強く、お転婆なところもあり、担当者にはとても甘えん坊でした。12月25日に17歳で亡くなりました。



この他、ニホンリス、マナヅル、ロップイヤーラビット、プレーリードッグ、ワオキツネザル、ニホンザル、イワシャコ、モルモット、キョンが亡くなりました。